

2011.04.11

文具をお送りいただいたみな様

お父さんたちのネットワーク世話人
石垣政裕

支援物資のご報告No.1

3月11日の地震のとき、停電の街で「降るような満点の星を見た」とみなが言います。暗い中、久しぶりに一つの部屋で毎回家族で食事する私たちは、忘れていたぬくもりに気づき、片寄せあう隣人の大切さもしっかりと心に焼き付けました。

大阪出張中だった知り合いが大阪で中継された津波の押し寄せる様子をリアルタイムで見ていたといいます。電気のなかった私たちがことの重大さを一番知らなかったのではないのでしょうか。ラジオで「道路に100人から200人が道路に浮いている」と携帯ラジオが言っていることがイメージできませんでした。しばらくして「200人から300人が」と同じラジオが語ることで、その数のあいまいさに漠然とした恐怖を覚えことを思い出しました。

時々TVで放映される津波の映像やインターネットの動画を私はいまだに注視することは出来ません。説明の言葉は違っていても繰り返されるビデオによって、それらの出来事をアーカイブ化させられるという恐怖感があるからです。それは現実に世界のいろいろなところで繰り返される戦争の悲劇を私たちが映像として『保存』してしまっただけではないという考えと同じような気がします。

沢山の方々から文房具を贈っていただきました。ありがとうございます。



ドイツのケルン市、横浜にある世界的に有名なエンジニアリングの会社、広島の方々、そして地元の仙台市からも沢山の支援をいただきました。写真のように段ボールで11個にもなりました。まだ続いています。

とりあえず、4月10日の日曜日、他から集まった文具と一緒に、私の車で奥州市のおやじの会へ届けました。せっかく通った高速道路もJRも木曜日の地震でまたストップしました。やっと開通したところを歩いていきました。到る所段差があり、スピードは出せません。



奥州市水沢地区は内陸部にある小さな城下町です。武家屋敷なども残る静かなたたずまいの町です。

呼びかけ人の鈴木さんは用事があったので、おやじの会の事務局長の阿部さんが迎えに来て下さいました。荷物があまりたくさんあったもので、車に入りきれず、阿部さんのお宅に一時的に預かってもらうことにしました。大変感謝しておられました。



呼びかけ人の奥州市水沢南小学校おやじの会の鈴木義則さんから早速その晩メールをいただきました。ここではそのまま紹介させていただきます。

石垣様

今日は遠いところわざわざお出でいただき誠にありがとうございました。

間違いなくお預かりいたしました。本来であれば私が対応させていただくべきところでしたが実を申し上げますと私の次女は秋田の短大新2年生で明日からの授業のため自家用車で送り届けて参りました。一時は在来線も復旧し安堵しておりましたがそれをあざ笑うかのような先日の余震。

昨夜、見た踏切は「電車が来ます。→→→」のサインが付きっぱなしで遮断機さえ取り外され、最寄りの駅へ通報するもシステムが誤作動してどうすることもできないとの返答でした。

どこもかしこも二次、三次災害が起こりうる可能性をはらんでおりますので石垣様もくれぐれもお気をつけてお過ごし下さい。

お預かりしました物資は必ず被災地児童へお届けさせていただきます。本当にありがとうございました、そしてこれからもよろしくお願い申し上げます。

私は内陸部に住んでおり家族も、家も今はすべて無事です。ですが沿岸へは約50キロ、その家族が居住したり商圈であったり、嫌になるほ

ど辛い日々を送る人々を見て参りました。

私はとても小さな人間です、正直こんなにご支援いただけるものとは夢にも思いませんでした。今日も九州の教師をしておられる方から支援の連絡がありました。

世の中は人は人を動かすんですね、決して損得では無いと言うことを今更ながら感じています。ご厚意に恥じぬようできる限り取り組んで参ります。

いつかおやじの会の皆様と「復興」を肴にお酒を酌み交す日を楽しみにしております。きっとそのときは笑顔で・・・

鈴木義則